

5月の全校朝礼

体育館へ全校児童が集まって全校朝礼をすることが、コロナ対策上難しいため、テレビ放送で行いました。子どもたちは、映像を各教室のテレビで見ながら、校長の話を聞いていました。今回は、次のような話をしました。

「ゴールデンウィークが明け、爽やかな5月となりました。新しい学年になってから一か月が経ちました。一つ大きな学年の生活に慣れてきたみなさんと、人が『大きくなる』ということは、どういうことか一緒に考えてみましょう。



『大きくなる』ということで、最初に思い浮かぶことは、身長が伸びて身体が大きくなることです。去年着ていた服や履いていたシューズが窮屈になって、服やシューズが小さくなったように感じる。こんな経験はありませんか。身体の変化では、新しい歯が生えてきます。小さかった頃に生えていた乳歯が抜けて、永久歯という大人の歯が生えてきます。

『大きくなる』ことで、できることが増えてきます。プール学習で水に顔を長くつけられなかったのが、水に潜れるようになる。鉄棒に登ることすらできなかったのに、簡単に逆上がりができるようになる。運動だけではありません。算数の計算ができるようになる。新しい漢字を書けるようになる。授業で学んだことに興味を持って、本を多く読むようになる。このように大きくなれば、たくさんの体験をしているいろんなことができるようになるだけでなく、興味を抱いてチャレンジしたいことも見つけられるようになります。

心にも変化が現れます。例えば、校庭の遊具の一番高いところに登って、そこから飛び降りても大丈夫なのかを考えるようになります。今から行うことが、安全かどうかを判断して、自分の身体を守ることが出来るようになります。事前に危ないことを予測することは、地震などの災害に備えるために必要な心構えでもあります。また、幼かった頃、いやなことや困ったことがあれば、泣いて周りの大人に助けを求めがちだったと思います。大きくなれば、泣くだけではなく、我慢したり言葉で周りの人に助けを求めたりできるようにもなります。



最後に、『大きくなる』ことは、年齢が増えていくことです。みなさんは何歳ですか。家族の中では、年齢の大きい方から何番目ですか。1年生の多くは、6歳です。6年生の中には、12歳になった子もいるでしょう。学校では、2年生の下には、1年生がいます。3年生の下に、1年生と2年生がいます。6年生の下には、1年生

と2年生と3年生と4年生と5年生がいます。大きくなれば、自分より小さな人が、多くなります。そんな自分より小さな人に、優しくなれることが大きくなることです。

人が『大きくなる』ということは、身体が大きくなり、できることが増えてくることではありません。危なくないかを自分で考えられるようになること、周りの人に優しくできるようになることも、大きくなることに必要なことです。

みなさんが今の学年で、身体も心も大きく成長して行ってほしいと願っています。」

この話は、絵本『おおきくなるっていうことは』（中川ひろたか著）を参考としました。